

縦糸と横糸で織りなす主体的な学び —他大学との連携と高等学校との連携—

関西大学

三浦真琴・村垣りん・吉江あかり

1 はじめに

本事業は21世紀を生き抜く考動人<Lifelong active learner>を養成するプログラムである。社会から要請される能力を育成する機会を、汎用的技能や批判的思考力等を培う交渉学・クリティカルシンキングをテーマとした科目・ゼミ・ワークショップを柱に提供している。さらに考動力を形成的に評価するコモンルーブリックを開発し、教育学習活動の成果を可視化するとともに、学修行動・到達度を間接・直接評価の両面から調査している。この結果を継続的に教育改善に反映するために、学修コンシエルジュの育成・教員コミュニティの形成を視野に入れた全学的なFD・SDを充実させている。

2 横の広がり

主に初年次学生を対象にしたアカデミックスキルやPBLなどの授業において、学生の学びを支援する学生アシスタント（本学ではラーニングアシスタント、以下、LAと略記）は、支援の対象となる学生のことを第一義に考える姿勢を常に保っている。LAを活用しているクラスの受講生へのアンケート（昨年度実施）では9割の学生が「授業にLAがいてよかった」と答えたほか、「グループの活動や議論が活発になった」（91.1%）、「授業時間で行う演習課題への理解が深まった」（90.3%）など多くの項目でLAを肯定的に評価している。特筆すべきは「他の受講生と協力して活動する事が重要だと感じた」に対する評価が最も高く（93.3%）、受講生が自らどのように行動すればよいかを考えることをLAが見事にサポートしていることが窺える。このLAは、授業外にもラーニングカフェを企画・運営して学生に学びの場を提供するのみならず、同様の制度を取り入れている大学、あるいは導入を検討している大学と連携し、相互に授業参観をしたり、研修や合宿を共同で開催したりしながら、意見や情報の交換や共有を図っている。昨年度からは同様の学生アシスタント制度を有する複数の大学を拠点校として開催するPAL（Peer Assisted Learning）フォーラムの企画・運営を学生アシスタントが担っている。今年度の秋学期に実施するアンケートの結果とともに、他大学との連携事業について、その活動に関わった学生が報告する。

3 縦のつながり

社会人基礎力を涵養するために、相手との信頼関係を構築することを主眼とした交渉学を積極的に展開している。学生間でwin-winの関係を築く授業とは別に、主に知財部門に所属する社会人とのワークショップを通じて、インターンシップでは経験できない意思決定のプロセスを体験している。学生（将来の社会人）が職業人（学生の将来）と接することにより、現在と将来を取り結ぶ学びを具現化している。交渉学を受講し、社会人とのワークショップを体験した学生が高等学校に出向き、高校生を対象とした交渉学ワークショップを企画・運営している。高校生（将来の大学生）が大学生（高校生の将来）と接することにより、大学における学びへの転換を予期的に体験している。従来のパターン学習や暗記を専らとする授業とは異なる交渉学は高校生の好奇心を十分に刺激し、中学生を対象とした交渉学ワークショップを自ら企画し、実践するに至っている。生徒や学生の学びに連続性や連関性を持たせることこそが、高大連携を具現化することにつながるとの十分な感触を得ている。交渉学ワークショップの企画運営にかかわった学生から、その具体的内容について報告する。